

<p>単元(教材)名</p>	<p>たすのかな ひくのかな(2年)</p>		
<p>学習目標</p>	<p>数量の関係をテープ図に表すことを通して、減法逆の減法の問題場面でも、減法であることに気付き、立式の根拠を明らかにして問題を解決することができる。</p>		
<p>メディア活用の意義</p>	<p>《コンテンツの概要》 パワーポイントで作成した問題場面提示用の素材。数量の関係をとらえやすくするよう、動画を交えたデジタル紙芝居仕立てにした。また、テープ図の理解を深められるように、問題場面のお話にそって、テープ図を作成する様子も盛り込んだ。 《使用目的》 「はじめの数」「とんでいった数」「のこりの数」を視覚的に表現することによって、数量の関係をとらえやすくなる。</p>		
<p>学習内容・活動の実際</p>	<p>評価と指導・援助</p>	<p>メディア利用と環境</p>	
<p>問題を読み、何がわかっていて、何を求めるのかを明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「のこりは」とあるから、ひき算かな。 ・ でも、「のこりは7わ」って、答えがわかっているよ。 ・ 「とんでいった数」を求める問題だね。 ・ なに算の式になるのかな。テープ図に表してみよう。 <p>個</p> <div data-bbox="209 981 1050 1032" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>テープ図で しきのわけを はっきりさせよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「はじめの数」は、わかっていること(数量)とわからないこと(求める数量)を明らかにする。 ・ 「とんでいった数」は、わからないから にしよう。 ・ テープ図に表すと、ここの部分を求めるんだな。 <div data-bbox="233 1151 671 1296"> </div> <p>全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テープ図の、ここの部分を求めるから、全体からこっこの部分をひけばいい。 ・ 全体の18から、のこりの7をひけば、とんでいったを求めることができるよ。 ・ 式は$18 - 7$で、答えは11わになります。 ・ (テープ図に表して)ひき算の手の動きになるから、やっぱり、ひき算だ。この部分を求めるから、ひき算だ。練習問題に取り組む。 ・ テープ図に表して、部分を求める時はひき算になるんだね。 <p>まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テープ図を作れば、正しく式を作ることができるね。 ・ テープ図で、ひき算になるわけをはっきりさせることができたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題場面を何度も読み返したり、視覚化したりすることによって内容をとらえられるようにする。 <p>わかっていること(数量)とわからないこと(求める数量)を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テープ図に表すことに、とまどっている子には、「まず、初めに何羽いたのかな。」と問いかけ、全体を明らかにできるようにする。 <div data-bbox="858 1760 1102 1928" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>数量の関係を とらえ、テープ図 に表すことができる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室環境 普通教室 ・ 視聴覚機器 コンピュータ1台 プロジェクター 簡易スクリーン ・ ソフト (パワーポイント) 小算研ホームページよりダウンロード <div data-bbox="1123 1182 1453 1406"> </div>	
<p>授業の成果と今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画を交えたデジタル紙芝居仕立て動画(数学的な考え方)問題場面の内容や、数量関係の理解を深 ・ 本時では、導入の段階で位置付けたが、児童の実態に応じて、個人追究の場でも活用することができ、個に応じた指導・援助の手立てとなった。 		